

「やさしい日本語」で伝えるためのポイントこれだけ！

「やさしい日本語」は日本語から機械的に翻訳できません。やさしい日本語は日本語を単純に言い換えるだけでなく、外国人住民にわかりやすく伝えることを意識して文章の構成を大きく見直すことも必要になります。

下記は、その際のポイントです。※太字は特に重要なポイントです。最低限、太字の部分は守ってください。

情報を絞る

- 文字量を A4 サイズ 1 枚（12 ポイントで 1000 字程度が目安）以内に収める**
- 伝えるメッセージを絞る（例:「どんなときに手続きが必要なのか」というメッセージ） P11**
- メッセージを伝える相手は外国人住民に特定する P11**
- 読み手目線で情報を整理し、優先順位の低い情報（例:根拠法令）は削除する P11**
- 例が多数あるときは、最頻出の例 1 つから 3 つ程度に限定する P13

どこに何が書いてあるかを分かりやすく

- メッセージの結論や一番伝えたい部分は文章の最初を書く P12**
- 金額や時間、場所などの重要な情報は枠で囲うなどの目立つ工夫をする P12
- 手順や長い解説などは番号をつける・対象を複数に分けるときは箇条書をする P12**
- 文書の流れを明確にする P13
- 読み手が本文と注釈とを区別できるよう、※などを活用して書き分ける P13
- イラストや表を活用する（ただし、イラストは国や地域によって解釈が異なる場合があります）場所を示すときはできるだけ地図を載せる P14
- 関連した情報（例：書類名とダウンロードリンク）は同じ所にまとめて載せる P14

文の硬さを取る

- 複雑な表現はポイントを整理して書き直す P12**
- 名詞や複合名詞は文で表す（例:水分補給⇒水を飲む） P12**
- 抽象的な表現はせず、具体的に書く P13**
- 文は話し言葉調の平易な表現にする P14

一文で工夫

- 重複は避ける P14
- 一文につき一つの意味にする P13
- 文を短くする P13
- 主語は明記し、読み手目線で統一する（例:～を発行する⇒～をもらう） P14
- 「類義語」は平易な一語に統一する（例:問い合わせる、相談する⇒聞く） P15
- 擬音語・擬態語（オノマトペ）、世間一般であまり聞かないカタカナ語は使わない P15
- 裏面の「言葉遣いの表記のルール」にない文法も使わない（例：二重否定） P15
- 国により制度が大きく異なるもの（教育制度）や日本独特の文化は説明を追加する P17

外国人住民を意識

- 外国人住民に向けた工夫をする（例:本人確認資料「在留カード、運転免許証」） P17
- 制度の説明をするときはメリットとデメリットを簡潔に伝える P13
- リンクを設定するときは漢字にルビが振ってあるページ先に限定してリンクを設定する P18

